



# 登山 月報

JMSCA 登山月報 第661号 令和6年4月15日発行



「雲取山山頂から見た石尾根方面」 表紙提供 公益社団法人 東京都山岳連盟 理事 松本圭司

8月11日 みんなで山を考えよう!  
祝「山の日」  
全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

ボルダージャパンカップ2024 開催レポート	2
第17回 SKIMO (山岳スキー競技) 日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会	5
第17回 SKIMO (山岳スキー競技) 日本選手権 白馬大会	6
群馬県開催 令和5年度 登山部指導委員会 A級主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告	8
岐阜県山岳連盟自然保護委員会のSDGSな活動	9
寄贈図書	9
Enjoy Climbing	10
JMSCA、表紙のことば	11

# No.661

# ボルダージャパンカップ2024 開催レポート

大会副実行委員長 藤枝隆介

19回目となる「ボルダージャパンカップ2024(BJC 2024)」が2月10日(金)～12日(月・祝)に佐賀県立多久高等学校内に建設された「九州クライミングベース SAGA」で開催されました。九州でのBJC開催は2012年の第7回長崎大会以来12年ぶりということになります。

今大会での競技施設は今年佐賀県で開催される「国民スポーツ大会 SAGA2024」に向けて昨秋に満を持してオープンしたスポーツクライミング競技施設ということもあり、佐賀県とJMSCAとの共催というかたちで開催されました。

## 【開催概要】

大会名：ボルダージャパンカップ 2024

期 日：男子予選 2024年2月10日(土)

男子準決勝・女子予選 2024年2月11日(日)

女子準決勝・男女決勝 2024年2月12日(月・祝)

会 場：九州クライミングベース SAGA

来場者数：

	2/10(土)	2/11(日)	2/12(月・祝)
選手	60	74	26
トレーナー	6	6	6
スタッフ	81	83	70
業者	36	40	42
VIP	12	18	35
メディア	12	25	38
観客	約100	約400	約1000

## 【競 技】

### ●男 子

第1課題は緩傾斜での横っ飛びランジからスタートする課題。2023年ボルダールワールドカップ年間王者の安楽宙斗選手や通谷律選手の一撃を含め4選手が完登する展開の中、昨年優勝の榎崎明智、パリ代表を決

めている榎崎智亜選手が完登を逃す。第2課題は強傾斜の中に様々な動きの要素が凝縮した課題。榎崎智亜選手と緒方良行選手が1トライ目でゾーンを止めるものの完登には至らず完登者なしとなった。第3課題は繊細な動きの中に思い切りが求められるスラブ課題。スラブが得意な選手たちがゾーンを獲得できない中、緒方選手が6トライ目で完登を決めリード、榎崎明智、智亜選手も少ないトライ数で完登し緒方に続いた。最終課題は藤脇、榎崎兄弟の3選手が少ないトライ数で完登すれば逆転できる可能性を残したままスタート。大きなマクロホールドがアンダーの向きでシンプルに配置されたパワフルな課題。3選手共に1トライ目からゾーンを獲得し、逆転優勝に肉薄するものの完登を逃し、緒方選手の優勝が決まった。長年トップ選手として活躍し、ボルダールワールドカップ優勝など輝かしい戦歴をもつ緒方選手であるがBJCでの初優勝を地元九州開催の大会で達成した。

### ●女 子

第1課題は緩傾斜にスローピーなマクロとカチホールドが散りばめられた課題。森秋彩、野中生萌、伊藤ふたば、中村真緒の4選手が一撃を決めて一歩リード。第2課題は強傾斜をフックなどを駆使し登り、TOPへの一手は爆発力が必要な課題。ここで予選、準決勝と1位をキープしてきた中村選手が3度のトライでもTOPを保持しきれず完登を逃す。第3課題は出だしでパワフルな動きも必要なスラブ課題。4人目の伊藤選手までゾーンまでしか進むことかできない重苦しい空気感が漂う中、松藤藍夢選手が迷いのない足捌きですると進み一撃を決め、続く中村選手も続き優勝争いに踏みとどまった。5人に優勝の可能性が残

### 男子リザルト

順位	BIB	名前	なまえ	所属	生年	前R	#1	#2	#3	#4	成績
1	M003	緒方 良行	おがた よしゆき	B-PUMP	1998	4	T2 z1	z1	T6 z2	-	2T 3z 8 4
2	M002	榎崎 智亜	ならさき ともあ	無所属	1996	1	z1	z1	T1 z1	z1	1T 4z 1 4
3	M007	藤脇 祐二	ふじわき ゆうじ	大阪府山岳連盟	1995	6	T2 z1	z4	-	z1	1T 3z 2 6
4	M004	榎崎 明智	ならさき めい	日新火災	1999	3	z5	-	T2 z2	z1	1T 3z 2 8
5	M006	通谷 律	かよたに りつ	佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟	2006	2	T1 z1	-	-	z2	1T 2z 1 3
6	M007	安楽 宙斗	あんらく そらと	千葉県八千代高等学校	2006	5	T1 z1	-	-	z3	1T 2z 1 4

### 女子リザルト

順位	BIB	名前	なまえ	所属	生年	前R	#1	#2	#3	#4	成績
1	W012	中村 真緒	なかむら まお	日新火災	2000	1	T1 z1	z1	T1 z1	T2 z2	3T 4z 4 5
2	W001	野中 生萌	のなか みほ	無所属	1997	5	T1 z1	T2 z2	z5	T2 z2	3T 4z 5 10
3	W004	松藤 藍夢	まつふじ あのん	日本大学	2003	2	-	T2 z1	T1 z1	T7 z7	3T 3z 10 9
4	W003	伊藤 ふたば	いとう ふたば	デンソー岩手	2002	3	T1 z1	T2 z1	z2	z6	2T 4z 3 10
5	W002	森 秋彩	もり あい	茨城県山岳連盟	2003	6	T1 z1	T2 z1	-	z6	2T 3z 3 8
6	W013	石井 未来	いしい みく	滋賀県山岳連盟	2000	4	T4 z4	z1	-	-	1T 2z 4 5



緒方良行選手

る大激戦の中で迎えた最終課題は初手からの飛距離も必要となるコーディネーション課題。野中選手が2トライで完登し優勝への望みをつなぐ中、最後に登場した中村選手も2トライ目でギリギリの完登を決め、全ラウンド首位での初優勝を決めた。

### 【大会運営】

B J Cは当協会の主催する大会の中で最も注目度の高い大会でありながら、昨年から続くコンパクトな大会運営に最大限配慮しつつも期待されている大会のクオリティをいか担保するかということが今回最も重要なテーマでした。ここ数年のB J Cとは異なり既存の競技壁を用いることで壁建ての予算は掛かりませんでしたが、屋外ということもあり天候対策を万全にすれば経費は嵩み、もし当日の天候が穏やかであれば無駄となる什器などが多く計上されることもあり、事前の準備には頭を悩ませました。演出系の支出などは最低限としつつも、初開催の会場で現場に入ってからからの支出の増加があることを想定し、これまでであれば業者に依頼していた作業を出来るだけインハウスで行うことでコンパクト化を進めました。

結果的に目標は最低限達成できましたが、一部のスタッフや選手には大きな負担を強いることとなってしまったことは反省点として認識しています。

また、九州とはいえ寒さが予想される屋外での競技

実施に関しては開催前から多くの懸念が想定されました。

特に選手及びトレーナーで60人を超える人員を収容できるアイソレーション施設を有していないため、大型テントでの対応を当初考えていましたが、建築確認申請及び予算面で断念し、リード壁周囲をアイソレーションエリアとすることとなり寒さだけではなく雨への対策も難易度の高い状況での開催となりました。

これらに対しては各所に暖をとることのできるテントを配置し、20台を超える大型灯油ストーブを設置することで対応しましたが、寒さ・雨対策としては万全とはいかなかったと思います。

さらに会場北方に位置する天山からの吹き下ろしによる強風と水捌けの悪い粘土質の土壤による水たまりやぬかるみ等、直接的な競技運営以外の面で配慮しなくてはならないことが多く発生し悩まされました。これらは今後同会場での開催時に克服していきたいと考えています。

### 【その他】

今大会では「地域 x スポーツ産業」でビジネス創出を目指すプログラム「SPORTS OPEN INNOVATION BUSINESS BUILD KYUSYU」の一環として「SAGA クライミングフェスタ 2024」も同時開催されました。キッ



中村真緒選手



男子3名の表彰台



女子3名の表彰台

チンカーの出店をはじめとし、ボルダーやVRドライブ、テントサウナの体験会、地元名産品の物販などで賑わいをみせていました。地方開催の大会ではこれまで集客で苦戦することも多かったにも関わらず、今大会では最終日には約1,000名の観客で大いに盛り上がりを見せ、こういったイベントが現状を打開する一つのロールモデルになりうると実感しました。

そのような状況の中、大会自体は大きなトラブルもなく終了し、競技の盛り上がりと共に非常に印象の残る大会となりました。

無事大会が終了したのは、国スポに向けて着々と準備を進める佐賀山岳・スポーツクライミング連盟をはじめとして、それをサポートする九州近隣の岳連の皆様、そしていつも大会を支えてくださる競技役員の皆様のサポートがあってこそだと思います。改めて感謝申し上げます。

**【佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟 会長 宮原敏明】**

今回、佐賀県多久市でボルダージャパンカップ2024が開催できたことは、我々県民にとっても大きな第一歩でした。2024年はこれまでの国民体育大会から国民スポーツ大会に代わる最初の年になります。それを佐賀県で開催することは、大きな荣誉で誇らしいものがありますが、同時に国スポでは一部新しいルールのもとでの大会となり、不安要素も多くありました。

本大会の前にリハーサル大会を開催することで、その時点での問題点を本大会に向け改善していくつもりでしたが、今回のBJCを開催したことで、ボルダー棟の前の水はけの悪さ、選手の試技を録画するカメラの位置など、紙上ではわからなかった問題点があげられ、我々連盟だけでなく、国スポを運営する多久市実行委員会の皆様と検証できたことは、大きな収穫でした。次に開催されるリードジャパンカップにおいても問題点が浮上すると思われるので、6月のリハーサル大会、10月の本大会にむけ、しっかり準備していきたいと思っています。

ボルダー施設の概要ですが、高さ5m、幅30m内に様々な課題を構成することができ、ボルダーでの練習不足が大きな課題であった我々にとって、待ち望んでいた施設になりました。佐賀県から樋口純裕、中上太斗、通谷律、通谷結太の男子4人、大河内芹香、樋口結花、梶絢香の女子3人が出場しました。男子は、通谷律が予選6位、準決勝2位、決勝5位と持っている力を十分に発揮してくれました。女子は、大河内芹香が予選12位で、準決勝でも果敢にトライしていたがいつもの力が振るわず、26位でした。この7人もLJCに向け、しっかり準備していくことで、それらが国民スポーツ大会の成績につながっていくと信じています。

2月18日(日)に富山県黒部市の宇奈月スノーパークで、第17回 SKIMO (山岳スキー競技) 日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会が開催された。

今年からはインディビジュアル競技のみの開催となり、オリンピック種目のスプリント競技、ミックスリレー競技の選手選考タイムトライアルが3月に白馬八方スキー場での開催となる。

昨年は雪不足の心配から一転、大会期間中に大雪に見舞われ、コース設営に一苦労した記憶が蘇る。

今年も雪不足の中、大会二日前に雨に見舞われ、更には気温も上がり、大会までコースの雪がもつのか、大会スタッフ一同、ヒヤヒヤしながら大会当日を迎える。

出走した選手は全カテゴリ男女合わせて36名。また、韓国のナショナルチームからジュニア男子1名、ユース男子1名、シニア女子1名、コーチ1名の4名が参加した。

今大会の注目選手は、男子から、日本選手権3連覇中の島徳太郎選手、昨年2位で日本選手権で複数回優勝経験のある藤川健選手、ワールドカップに参戦中の小寺教夫選手、MTB国内トップクラスの2選手、宮津旭選手、平林安里選手の5人の選手。

女子は、昨年本大会優勝の田中友理恵選手、ワールドカップ参戦中の白井夏海選手の2人。

宇奈月温泉街の中心地でスタートを切った選手達は、スキーを背負ってスキー場へ繋がる林道へと駆け上がり、最初のトランジットエリアからスキーを履きスキー場へシール登行で進んで行く。

スキー場へ出ると、そこからは非圧雪の斜面を登って、滑ってを繰り返すループコース設定となっている。

大会当日は天候に恵まれたが、気温が上昇し、選手には厳しいコンディションとなった。

シニア男子では、これまで第14回大会から日本選手権を三連覇している島徳太郎選手が終始トップを快走、

MTB日本代表選手の2人、宮津旭選手、平林安里選手が後を追うレース展開となった。

今年ワールドカップ転戦で実力をつけた島徳太郎選手が後続の追従を許さず、見事に優勝、四連覇を果たした。

シニア女子は昨年に続き、田中友理恵選手が他を寄せ付けず優勝し、二連覇を飾った。

田中友理恵選手は、元バイアスロンのオリンピック出場選手であり、昨年からSKIMOへ本格参戦し、初年度で日本選手権を制覇した実力の持ち主である。

優勝した島徳太郎選手と田中友理恵選手は、日本選手権前のワールドカップ第4戦 スイス大会のミックスリレー競技でペアを組み、A決勝で8位の好成績を出し、世界との差を着実に縮めている。

3月17日(日)は、場所を白馬八方尾根スキー場へ移し、スプリント競技の日本選手権が開催される。前日の16日(土)は、ミックスリレー競技の代表選手選考のタイムトライアルも実施される。2026年ミラノ・コルティナダンペッツォオリンピックへ参加するための最終選考会となるため、熱い闘いとなるだろう。

大会前に雪がもう一降りすることを祈るばかりである。日本選手権 インディビジュアルの結果詳細は以下の通り。

シニア男子	優勝	島 徳太郎
	2位	宮津 旭
	3位	平林 安里
シニア女子	優勝	田中 友理恵
	2位	白井 夏海
	3位	堀部 倫子
ジュニア男子(U20)	優勝	滝澤 連
ユース男子(U18)	優勝	笹川 勇太
	2位	JAEWON JUNG (韓国)
	3位	藤井 駿杜
ユース女子(U18)	優勝	田邊 美藍

(文・写真：SKIMO委員会 広報担当 鈴木淳平)



▲非圧雪斜面の登行



▲トランジット後の島徳太郎選手



▲トランジット中の田中友理恵選手



▲ゴールの田邊美藍選手

3月16日(土)、17日(日)の両日、長野県白馬村の白馬八方尾根スキー場の名木山ゲレンデにて第17回SKIMO(山岳スキー競技)日本選手権 白馬大会が開催された。

先月の宇奈月温泉大会同様、ゲレンデの積雪が少なく、大会の4日前に開催ゲレンデが決定するという、大変慌ただしい状況であった。

今大会は、2026年にイタリアで開催されるミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピックの新種目となるスプリント、ミックスリレーが競技種目となる。

2026年冬季オリンピックの選手選考は、2024-25年シーズンの世界選手権とワールドカップの成績が基準になる。つまり、今大会で日本代表の資格を得ることが、まさにオリンピックに向けた第一歩となる。

16日(土)は、ミックスリレーの日本代表(2024-25年シーズンの強化指定選手)を決める選考タイムトライアルレースが実施された。

ミックスリレーのコースは、①70mの高度をスキー登坂、②シールを剥がして70mの高度を滑走、③シールを装着してダイヤモンドの形状で仕切られたコースをスキー登坂、④スキーを担いでツボ足登坂、⑤再度スキーを装着して登坂、⑥二度目の70mの高度を滑走、⑦ゴール手前でスキーにシールを装着し滑走してゴールする流れとなる。

選手は30秒間隔で1人ずつスタート、シニア男子13名、シニア女子7名、ユース(U18)男子3名、合計23名の選手がタイムトライアルに挑んだ。

シニア男子は、島徳太郎選手が8分41秒34でトップとなり、2位、3位には国内トップクラスのMTBライダーである平林安里(アリ)選手、宮津旭選手が続いた。

シニア女子は、田中友理恵選手が9分46秒38でトップとなり、2位に滝澤空良(ソラ)選手、3位に白井夏海

選手が入った。

また、ユース(U18)男子では、地元白馬の笹川勇太選手がトップでゴールした。

シニア男子の島選手、シニア女子の田中選手、滝澤選手の3名は、今シーズンのワールドカップで既に強化指定の資格を獲得しており、今大会でシニア男子の平林選手、宮津選手、シニア女子の白井選手の3名が2024-25年シーズンの強化指定の資格を新たに獲得した。

翌17日(日)は、スプリント競技が開催された。

当日は気温が上昇し、コース内の雪がみるみる溶け出し、レース中にもコース内に雪入れをしながらの運営を余儀なくされた。

スプリント競技のコースは、前日に開催されたミックスリレータイムトライアルのコースから①のスキー登坂の部分と②のスキー滑走、⑦のゴール手前でのスキーへのシール装着が割愛されて実施された。

競技は、予選、準決勝(シニア男子のみ)、決勝とタイム着順の勝ち残りで行われる。

予選は一人ずつ20秒間隔でスタート。シニア男子は、予選の12位までが準決勝へ進出し、準決勝は6名ずつ2組のレースが実施され、各組の上位2位までと、2組の3位以下でタイム上位2名を加えた6名が決勝へ進出し、勝敗を決める。つまり、予選から決勝までは3レースを戦うことになる。

シニア女子は予選の6位までが決勝へ進出できるため、2レースを戦って勝敗を決める。

レースはシニア女子の決勝から実施され、次いでシニア男子の決勝が行われた。

シニア女子の決勝は6名中5名が今シーズン、ワールドカップに参戦した選手での戦いとなった。

ダイヤモンドで仕切られたコースをスキー登坂していく選手達の差が徐々に開き始め、ツボ足セクションに



▲シニア男子決勝 ツボ足セクション 2位~4位の争い



▲シニア女子 ツボ足セクションでの激闘



▲シニア男子決勝 リードする島選手



▲シニア女子決勝 リードする田中選手

到着した時は田中友理恵選手がリードし、次いで滝澤空良選手と白井夏海選手が2位、3位争いをする展開となった。

最後のスキー滑走に入った時点で田中友理恵選手が後続に差を広げ、昨シーズンに続き、2年連続の優勝となった。

2位、3位争いは最後の滑走までもつれ、4つ目の旗門で背後からインコースを刺した滝澤選手が白井選手を交わして昨年同様2位、白井選手が初の表彰台3位となった。

シニア男子の決勝は、今シーズン、ワールドカップに参戦している島選手、遠藤選手、小寺選手の3名が順当に勝ち残り、国内トップクラスのMTBライダー平林選手、宮津選手の2名がどこまで食い込めるのかが見所であった。

スタートは予選、準決勝共にトップタイムでゴールしている島選手が勢い良くスタートダッシュを決めたかに思えたが、明らかなフライングとなり、波乱のスタートとなった。

ペナルティ15秒のタイム差を縮めるべく、島選手は最初から猛プッシュで2位以下の後続を引き離しに行く。

2位から4位までは、平林選手、宮津選手、遠藤選手の3人での争いとなった。

島選手はそのまま逃げ切りトップでゴール、後続とのタイム差がどうなるのかわからないゴールである。

シニア女子同様、2位、3位争いは最後の滑走までもつれ、遠藤選手を平林選手が追う昨年と全く同様の展開となる。

昨年は遠藤選手が0.15秒差で逃げ切り2位を死守したが、今年は滑走終盤まで遠藤選手が先行するも最終



▶シニア女子決勝  
トップを滑走する田中選手



◀シニア男子決勝  
ツボ足で駆け上がるトップ島選手

旗門でスピードダウン、地元白馬でアルペン競技の経験がある平林選手は最後の旗門を通過してからのスピードが伸び遠藤選手を捉えて逆転、0.38秒の僅差で2位となり、昨年の雪辱を果たした。

気になる1位と2位のタイム差は19.85秒差となり、ペナルティ15秒を加算しても4.85秒差で島選手が見事3連覇を飾った。

また、ジュニア(U20)男子は滝澤漣選手、ユース(U18)男子は笹川勇太選手、ユース(U18)女子は田邊美藍選手が優勝を飾った。

—————〈お詫びと訂正〉—————

本大会において、大会実行委員会の不手際により、ペナルティを旧ルールでの20秒で加算し、スプリント競技において平林選手を優勝、島選手を2位で表彰し、大会を終了した。

しかしながら、大会終了後、新ルールでペナルティが15秒であることが判明し、島選手を優勝、平林選手を2位と順位を訂正した。(シニア男子の13位と14位の選手も入れ替わった。)

当該選手をはじめ選手の皆様ならびに関係者各位に対し、深くお詫びを申し上げますと共に、今後、このような事態が発生しないよう、再発防止に努める所存です。

(文・写真：SKIMO委員会 広報担当 鈴木淳平)



▲シニア男子決勝 2位～4位の滑走



▲シニア女子決勝 熾烈な2位3位争い



▲シニア女子決勝 2位から4位までの滑走

## 群馬県開催 令和5年度 登山部指導委員会 A級主任検定養成講習会、 上級指導員養成講習会報告

令和6年3月16日(土)～17日(日)

群馬県谷川岳においてA級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会が群馬県谷川岳土合山の家周辺にて開催された。

A級主任検定4名、コーチ2養成講習8名、講師3名、群馬県スタッフ2名の計17名での開催となった。

積雪が例年の半分以下の今年の谷川岳でしたが、数日前に60センチくらい降雪があり何とか宿舎のすぐ近くで実技講習ができました。

群馬県山岳・スポーツ連盟様においては吉田会長ならびに石橋指導委員長に事前準備からお手伝いいただきまして誠にありがとうございました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

### 受講生感想

#### (一社) 京都府山岳連盟/京都趣味登山会 磯江節子

3月16～17日、谷川岳麓で開催されたコーチ2養成講習会に参加しました。初日の野村指導委員長による冰雪技術の机上講習会では、ピッケル、アイゼンなど各種ギアやロープの結び方の用語の統一、カラビナの種類とその用途の違い、雪上歩行、耐風姿勢、滑落停止など、まず冰雪技術の基本を忠実に抑えることを学びました。続いて、本郷講師による“スタンディングアックスブレイ(SAB)”の模範実技がありました。雪上での確保技術のひとつであるSABは、所属する山岳会の雪上訓練で何度も練習してきた技術ですが、今回、最新の技術をその根拠に基づいてしっかり習得できたことは大きな収穫でした。午後からは「土合山の家」に近い雪の傾斜面に移動して実技講習へ。野村委員長からの質問に受講生が答える形で、雪上技術のポイントをひとつずつ確認。また、秋山講師によるスノーピケットや土嚢袋を使っの支点構築のデモンストレーションもありました。その後、全員で傾斜面をより滑りやすくなるよう慣らしたうえで、一人ずつ滑落停止を実演。自分自身が安全で確実な技術を正確にこなせるだけでなく、相手が理解できるよういかに伝えるか。その指導法の重要性を改めて実感しました。

翌日の実技検定日、やや緊張した面持ちで前日の急斜面に向かいました。最も重点的に評価の対象となったのはSABの技術でした。前日に受講生同士ペアを組んで何度も練習しましたが、滑落停止と同様、自分



がその技術をこなしながら「相手が解るように見せて説明できる」ことが求められます。なぜここでブリッジプルージックを使うのか、ここではなぜオフセットDの環付きピナを使わなければならないのか。強固なプラトー作りから制動確保、さらに仮固定・自己脱出に至るまで、SABにはロープワークやギアの選択など、一つ一つの根拠を含めて重要な要素が凝縮されていると思いました。

今回、このような貴重な学びと気づきの機会を得られたこと、講師の皆様にご心より感謝いたします。これからも自己研鑽に励み、安全登山の普及と技術の継承に少しでも貢献できるよう努力していきたく思います。また、サポートくださった群馬県山岳連盟の皆様、参加された受講生の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

# 岐阜県山岳連盟自然保護委員会のSDGSな活動

岐阜県は自然にあふれ、立山北アルプスを中心に富山県、福井県、石川県にまたがる地域です。多くの自然環境がある中で、長年にわたり係わってきたのが“夜叉ヶ池”です。

場所は岐阜県と福井県の境にあり、池は福井県側にありますが、登山道は両側にあり関西からは岐阜県側が入山しやすく、数多くの入山者が入ります。

“夜叉ヶ池”には国内希少野生動物(絶滅危惧Ⅰ類)に指定されたヤシャゲンゴロウが生息しています。もし“池”に何かがあると、絶滅に直結するかもしれないと、多くの入山者のマナーの問題も指摘され、平成の時にヤ

シャゲンゴロウの生息数の調査が行われ、報告会に参加してきました。

具体的には岐阜県側の夜叉ヶ池ボランティアパトロール運営協議会に参加し、山開き、登山上の注意やマナーに対する啓蒙活動を実施してきました。池の周りにはベンチも作られ、池に直接入ることはできません。初めて訪れる人はマナーの厳しさに戸惑う方も居られますが、そうしないと自然環境は守れないのです。

モットーは“マナーを守って気持ちよく登山を楽しんでね”です。

岐阜県山岳連盟 自然保護委員長 門屋峰雄



## 寄贈図書

(株)山と渓谷社	「ROCK&SNOW」103 spring issue mar.2024	情報誌	立山・剣岳方面遭難対策協議会事務局	山岳遭難白書「令和5年 試練と憧れ」第40号	会報
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」2・3月号 第510号	会報	独立行政法人日本スポーツ振興センター	HPSC ニュースレター 2024 (Vol.39)	会報
特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.99	会報	日本スポーツ芸術協会	「Sport Art 2024」March 2024	会報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2426号、第2427号、第2428号	新聞	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第371号	会報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第681号	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」No.77'24.4	会報
(株)山と渓谷社	「新編 名もなき山へ 深田久弥随想選」	寄贈本	(公財)日本ゲートボール連合	「ゲートボールNav」2023年度号 Mar.2024	会報
Corean Alpine Club	「山(山)」2024年2月号 Vol. 283号	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1129	会報
Corean Alpine Club	「甲斐山岳」2023年 第43冊	寄贈本	中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊 295	会報
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 551	会報	大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.148	会報
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.409	会報	(公社)日本山岳会	「山」2024年(令和6年)3月号 No.946	会報
(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」vol.72	情報誌	京都府スポーツ協会	スポーツ時報 第141号 2024.3	新聞
(株)山と渓谷社	「山と渓谷」2024 4月号 No.1075、別冊付録 台湾山岳案内	情報誌	(一社)日本スポーツマンクラブ財団	日本スポーツマンクラブ財団会報 第177号	会報
(公財)日本スポーツ協会	「JSPoスポーツニュース」Vol.157、「JSPoフェアレニュース」Vol.157	会報	長野県山岳協会	「やまなみ」No.252	会報
(公社)日本山岳会山梨支部	「甲斐山岳」2024年3月、第15号	会報	富山県山岳遭難対策協議会	「山嶺」令和5年の山岳遭難防止活動 NO.33	会報
認定NPO法人 富士山測候所を活用する会	第17回研究成果報告会 講演予稿集	会報			

4年前、パタゴニアで起こした事故の影響とその後のコロナ渦により止まっていた海外ツアーだったが、2022年は一気に3回も海外へ行った特別な年となった。当初は、以前から温めていた春の「ネパールの沢」と、2021年の夏に富士山測候所で働く仲間と勢いで決まった夏の「パキスタン遠征」の2回の遠征を予定していた。復帰戦としてはこの2つ遠征で十分だったと思うのだが、2021年秋に突然決まったユタツアーが追加されることとなったのだった。

2021年11月11日。前日にオンサイトした現人神のクラック限定バージョン5.12dをトライした。早朝にもかかわらず、北平さんが今日もビレイを引き受けてくれた。2019年の怪我以降、まともなトレーニングをしていない状態で自信なかったのだがかなり被ったシンハンド～タイトハンドと言う得意系のクライミングだったこともあり一回で完登を決めることが出来た。

気分よく地上に降りて、仲間と楽しく語らう。長時間空中ユマール状態で待機し撮影してくれたカメラマンの高柳傑も一緒だ。

完登直後、仲間と気分よく語らい私は少し勘違いしたのだった。「俺って、まだ結構イケてるかも」勘違いかつ元来のポジティブ思考により、「頑張ればセンチュリークラックも登れるんじゃないか」と思ってしまったのだった。

超ワイド好きで、日本人として最も難しい高難度ワイドを登っていた北平さん。彼が随分前からセンチュリークラックを狙っている話は知っていた。コロナ渦で渡航が厳しかったこともあり延期が続いていたが、「今年は是非でもトライする。行かなかったら気が狂う」と少し前に直接聞いていたのだった。事故前(4年前)は、センチュリークラックもやってみたいと漠然とではあるが思っていた私は隣に座っているワイド好きクライマーに言ってみた。

ゆーすけ「センチュリークラックのツアーって俺も混ぜてもらっても大丈夫かな？」

北平「勿論じゃないですか！大歓迎です。是非、一緒にやりましょう。」

ゆーすけ「ヨシッ、じゃあトレーニングしないとなあ」

と言う訳で、年3度目となる海外ツアーが決まったのだった。いつもワタクシ即決なのだ。「だから勝機を掴めるのだ！」と言いたい所だけど、失敗も多々あるわけで。。。この件も、いつ嫁さんに話そうかなと少しドキドキしながら決めてしまったのだった。

結論から言うと、やはりこの行き当たりばったりの決定は失敗だったと言えるかもしれない。最高に楽しく充実したユタクライミングツアーだったのだから、結果的には私にとって大正解だったとある意味思ってるけど、この時に思い描いていたのは「世界最難のワイドクラックを登るツアー」だった。当然ながらこの瞬間私が狙っていたのは「世

※シンハンド 手指の第三関節は入るが手のひら全体は入らないクラック。難しいジャミングになることが多い。  
※タイトハンド 手のひら全体がギリギリ入るクラック。

界最難ワイド体験会」でなく完登を目指すツアー。結果を見れば、今回のツアーではセンチュリークラックは登れなかったし、私はまともなトライをするスタート地点にも立っていなかったと言えます。端的に言うとトレーニングが全く足りてなかった。一番の原因はそれに賭ける情熱が足りなかった。北平さんも完登には至らなかったけど、良いトライが出来たと感じた。彼の情熱は素晴らしく次のトライに向けてトレーニングを継続していることでしょう。

あの時一瞬でツアーを決めた私は、実はどこかで「何か違うかも」と気が付いていたのかもしれない。

世界最難の冠が付いた「センチュリークラック」の完登を目指してトレーニングする。

これって事故前のマインドならスナリと受け入れていた課題だっただろうけど、「これからは楽しい事しかやらない」と決めたはずの基本方針とあまりにも違い過ぎる。数値や他人と比べずに自分が本当にやりたいことをするはずなのに、いきなり世界最難かよ！ってことですね。

ワイドボーズがフリー初登を決めた10年程前。ニュースを画像や映像と共に見て、単純に巨大ループに走るワイドクラックはカッコ良かったし、その難しいワイドクラックを登ってみたいと思ったのは確か。しかし、その当時の私が世界最難ワイドという響きに吸い寄せられていたのも事実だと思うのだ。

一応、捕捉しておく、困難や世界に認められるようなトライを目指すこと。例えば今回の分かりやすい「世界最難」ワイドを目指すことに意味がないと思っているのでは勿論無い。今はそういうマインドでは無いけど、昔はそういう時代が私にはあった。困難を目指してトレーニングを継続し、様々なトライを積み重ねていった経験が今の私の力になっているはずだ。私にはそうやってクライミングに取り組む時間も必要だったんだと思う。

しかし、今はその流れからは距離を置き、少し落ち着いて人生の旅を続けようと思っています。

センチュリークラックへのトライは1日半ほど。私にとっては「世界最難ワイド体験会」となってしまった。



○日 時：令和6年1月17日(木)  
8時～20時15分  
○場 所：J S O Sビル3F会議室5(12  
人部屋)又はZoom  
○出席者：丸会長、蛭田、飛松、山本、吉田  
各副会長、小野寺専務理事、古賀、町田、  
望月 栗田、安井 各常務理事、小高、佐  
藤、中島、中橋、野村、畑中、樋口、前田、水  
村、小田部(途中退席)、平田 各理事、古  
屋、  
佐久間監事、オブザーバー百瀬競技委員長  
○欠席者 赤尾事務局長、濱田常務理事、  
山口、小日向、西谷、島田、杉本理事

## 1. 開 会 2. 会長挨拶

お忙しい中お集まりいただき有難う御座  
います。問題の多くは私に責任があります。  
1つ1つ解決していきたいと思ひます。  
本日も宜しくお願いします。

## 3. 会議成立状況報告

理事数29名中22名出席、監事数2名中  
2名出席(定款第33条、定足数=15名(過  
半数以上))

## 4. 議長選出

丸会長が議長をつとめる(定款第32条)

## 5. 議事録署名

会長及び監事(定款

## 6. 議 題

### 議案第1号 基金設置について

基金設置に関し望月常務理事が、正会員  
に対し経緯の説明をする内容の説明を行っ  
た。以下の様な指摘があり追加や修正をす  
る事で了承された。

#### 主な指摘事項

- 2024年以降少しずつ2000万円を返す様  
になっているが、その根拠について丁寧  
に説明する事。
  - 24年度は予算に対して収支相償が可能か  
どうかの追記。
  - もっと支出を減らさなくてはいけない。
  - 不信感を少しでも払拭する様に現状の改  
善事項を説明する事。
- 関連して、基金の実施につき、岳連から  
の協力の得方やJMSCAへの不信感への  
対応、理事の責任について以下の意見交換  
がされた。

- 信を問う為に会長・副会長が辞任する  
との表明も、JMSCAが変わっていく  
との説明になる。
- 会長・副会長辞任か、理事全員が総辞職  
か、覚悟を持って言わないと通じない。
- 自分の県は47都道府県で負担して乗り切  
ろうと考えている。必ず返すという姿勢  
を見せる必要がある。今は、解任につ  
いて協議する時期ではない。
- 解任ではなく辞任としたい理由は、今年  
はオリンピックの年でもあり、スキャン  
ダルになる可能性が高い。選手への影響  
を心配する。会長・副会長が同時に辞任  
がよい。

#### 議長

- 不信感が私のせいになるとのことであ  
り、信を問いたい。
- 今はその話をする時期ではない。
- 同意見である。辞任と基金は別、バー  
ターではない。

#### 議長

- 辞任することは、今までおこなって来た  
ことを次の人が行う様になるのである  
が、それは簡単ではない。47都道府県に  
対しても不信感を増長することになる。
- 今の説明はよく分からない。今後につ  
いては回答していない。顧問参加も同じ  
だった。説明が漠然としている。

#### 議長

#### 採決1

一定の時期(例えば3月)まで基金が集  
まるまで理事全員が協力する。その後4月  
に臨時総会を実施することを前提とするこ  
とにつき採決し、以下のとうりとなった。

総数22名、賛成21名、反対1名(樋口理  
事)、欠席7。

しかし、その後以下の意見が出た。

- 6月前に決算結果も出ないのに4月中に  
臨時総会を開くと言ってよいのか。又、  
改善策をどうするか。当時の競技委員長  
を推薦した任命責任が出てくる。
- 田中氏に対する連帯保証の問題もある。
- 理事全員辞任の意思表示をする方がよい  
のではないのか。
- 理事全員辞任の方向性(案)が出たので  
採決を取り直した方がよい。
- また、4月に臨時総会で信を問うとのこ  
とだが5月末日の決算結果をもって通常  
総会に変更するという方が良いのではな  
いかという意見がでたため以下の内容  
で、採決を取り直すことになった。

#### 採決2

3月末までについて理事が一致団結して  
運営にあたり、6月の定時総会において信  
を問う。その方法については別途定めるこ  
とし、採決をとり以下のようになった。

総数21名、賛成18名、反対1名(樋口理  
事)、2名棄権。

### 議案第2号 取扱時期を一期、二期と分け る案について

- 時期を分けざるを得ないと思う。一期は  
3月末必須。
- 都道府県によっては5、6月の総会での  
決議も考えられ、二期については4月以  
降とする。詳細日程は別途定める。

### 議案第3号 岐阜県からの質問について

- 各質問について、事務局と財務委員会が  
返答を担当する。

### 議案第4号 長期/中期財政再建計画に ついて財政再建は誰が行うのか。

財務委員会、事務局で案を作り、理事会  
の一週間程度前に提出する。

#### その他

- 「田中顧問卒寿の会」は延期になった。開  
催日程は顧問参加有志と丸会長が今後再  
度取り纏めることになった。

以上

2024年(令和6年)1月17日記録 小野寺 齊

○日 時：令和6年(2024年)2月10日(土)  
10:00～17:00  
○場 所：J S O Sビル3F 第一会議室と  
Webのハイブリッド会議

## 1. 開 会

### (1) 丸会長挨拶

2023年に一番登られた山は、大分県杵  
掛山で、都道府県の中では、沖縄県と千葉  
県のことでした。一方、遭難件数も多く、  
我々がやるべきことは、遭難件数減に向け  
ての活動と思ひます。本日は、連休初日  
にも関わらず、全国理事長会議にご参加  
いただきありがとうございます。コミュニケー  
ションを、少しでも改善できればと思ひ、  
このような場を持ちました。よろしくお願  
いします。

### (2) 出席者確認

#### 出席者(役員、委員長)

※印は対面、他はオンライン出席  
丸誠一郎会長\*、蛭田伸一副会長\*、吉田春  
彦副会長、山本謙副会長、町田幸男常務理  
事\*、古賀英年常務理事\*、小野寺齊専務理  
事\*、赤尾浩一事務局長\*、望月啓治常務理  
事\*、  
栗田季慎子・安井博志各常務理事、前田善  
彦\*、野村善弥\*、山口純子\*、小高令子\*、  
佐藤建・中島隆之・中橋沙羅・水村信二の  
各理事、古屋寿隆\*、佐久間務\*の各監事、  
松本光顕委員長、萩原崇宏顧問弁護士  
○欠席役員・委員長：飛松好子副会長、濱  
田豪常務理事、小田部拓・小日向徹・島田  
邦昭・杉本怜・西谷善子・畑中涉・樋口義朗・  
平田信也各理事、服巻辰則・谷口浩平・  
岩崎洋・青山千影・百瀬恭平・山本和幸・  
恒石直和・角田元・西原斗司男・宮澤克明・  
稲村彰映・樋口拓哉・藤江理枝各委員長  
出席者(都道府県理事長(含代理)、高体連  
登山専門部)

明田通世(北海道)、四戸義継(青森)、小野  
寺修(岩手)、大槻聡(宮城)、浦山沢樹(秋  
田)、井上邦彦(山形)、渡辺敏夫(福島)、  
中沢隆一(茨城)、芳賀真治(栃木)、天野賢  
一(埼玉)、蛭田伸一(千葉)(役員)\*、廣川  
健太郎(代理 東京)、伊藤靖雄(神奈川)、  
望月啓治(山梨)(役員)\*、今井浩二(新潟)、  
河竹康之(長野)、開澤浩義(富山)、宇都宮  
里志(石川)、榊田靖憲(福井)\*、木ノ内高  
嘉(静岡)、北村憲彦(愛知)\*、草川明(三重)、  
水谷嘉宏(岐阜)、片岡幸一(滋賀)、石田英  
行(大阪)\*、難波悌次郎(兵庫)、前田善彦  
(奈良)(役員)\*、白子欽也(和歌山)、渡辺  
公二(鳥取)\*、山崎裕晶(岡山)、豊田和司  
(広島)、鹿野慶行(山口)、明上邦彦(香川)、  
椎野彰浩(徳島)、武田豊明(愛媛)、福永幹  
郎(高知)、山上司(福岡)、前川文雄(長崎)、  
松井清明(熊本)、新原祐治(宮崎)、岩本郁  
夫(鹿児島)、田場典淳(沖縄)、佐橋秀男(高  
体連)

○欠席理事長：佐藤光由(群馬)、加藤宗利  
(京都)、富田一志(島根)、武末良樹(佐賀)、  
石川明德(大分)

会長が議長になる。

ホストは小野寺専務理事が務める。

議事録署名人は、会長及び監事。

## 2. 報告

### (1) 令和4年度赤字検証報告について

古屋監事が、配布資料を基に説明した。

個人の問題もあるが、それを許してしまった理事会の問題がある。任務懈怠、構造的な問題がある。担当する委員の人間の資質、能力を見極める必要がある。

質問 2019年に発生した問題が再発した経緯はどうだったのか。2019年の失敗があった後に、規則を作った。2020年は、数値的にはよくなり、気が緩んでしまったのではないか。2021年に赤字が発生し、その赤字の検証がないままに進んでしまった。予算を見ずに、使用してしまったということがあるのではないか。組織的に、M氏の暴走を止められなかったということではないか。

回答 気が緩んだと言えば、結果からみればそうなるが、従来の流れで進んでしまった。止めようとしたが、止めきれず責任を感じている。

### (2) 赤字問題への対応状況について

望月常務理事が配布資料を基に説明した。

・予算執行管理では、100万円以上の事業を執行する際に、執行伺いの制度を取り入れるとともに、財務委員会でキャッシュフロー、将来数か月先の支出見込、収支等を確認、監視している。

・補正予算策定で、すべての事業を見直したところ、財源計画と競技委員会等の予算が実情にあっていないことが判明。競技大会は、協賛会社と契約している8大会のうち、当初予算の8割を最初の4大会で支出していることがわかり、その後の事業中止も検討したが、違約金があるため様々な検討と議論を続け11月に補正予算が成立した。

今年度は、八王子WCの影響により、年度末に債務超過となる見込み。正味財産は、過去2年で1億1,000万円→2,500万円と減った。令和6年3月末では正味財産がマイナス2,000万円で、借入金は16,000万円に上る見込み。

5,000万円の基金があれば、正味財産は3,000万円が見込める。来期以降は、収益が4億4,000万円、支出を4億2,000万円におさえることで、毎年2,000万円、8年後をめどに返還できるようにしたい。

関係者の責任問題については、顧問弁護士と監事による追及調査をおこなっており、2-3月に結果が出る予定。

### (3) 基金の概要と募集について

望月常務理事が、配布資料を基に説明した。基金は、寄附と借入の中間のような性質があり、利子なしでの返還は保証されているがJMSCAの財務状況の改善が条件で、会計基準上は純資産ないし正味財産として扱う。1月に募集事項が決定し、申込から拋出までの流れ、管理方法等の説明をした。

質問 基金は短期的な対応で、協会として行うべき改善活動をどう実行し、根付かせるのか。小タスクに分解して、ガントチャートのような管理手法を使って、どう

改善しているのかを明示してほしい。

回答 プロジェクトやタスク進行管理をしっかりと行い、常務理事会、理事会で共有し、確実に実行に移せるように監視していく。また、状況の広報方法も、どういう方法がよいか検討していきたい。

質問 募集は1回限りか、締め切りの延長について検討できないか。

回答 第2期は6月ごろに設定できないかと考えている。

質問 第2期の募集の時期と、赤字問題についての責任を明確にする日程等と、総会での説明時期など、日程を明確にしてほしい。基金への協力をするには、タイミングが難しい。

質問 毎年2,000万円の収益を作り出すというのは、簡単ではない。どういう活動をするので、捻出していくのか、戦略を含め明示してほしい。

回答 スポーツライミングは予算内で収まるように管理すること、登山部は、支出予算減による財源捻出(共済会費からの移動)と、参加料、登録料金の値上げ等が方策としてある。共済会費は、増やす施策が必要である。

質問 登山部、SC部で、努力の結果、具体的にどういう数値になるのかを出してほしい。

### (4) 令和5年度の決算見込みについて

望月常務理事が、画面に表示した内容を基に説明した。1月末までの月ごと支出実績を説明した。大きい出費は、SC部の競技、強化委員会等。2-3月は大きい支出が発生するので、予算を許せない。

SC競技委員会については、当初予算(1億4,500万円)が例年の支出実績レベルで八王子WC分が少なく計上され、更に前期にすでに予算の8割を使ってしまった。見直した結果1億9,000万円が必要と判明、その後は支出について管理ができています。今期は、八王子のWCという特殊要因があったが、来期以降は、その部分は減らせる。来期支出予算を、3億5,000万円→2億7,000万円になるように努力している。

意見 どのように減らしていくのか具体的な数値を出してほしい。

質問 ガントチャートのサンプルを参考にしてください、管理してほしい。

回答 今期から来期にむけて、プロジェクト管理をしっかりと行い、進捗状況を見せられるように、検討していきたい。できる範囲で、ご協力いただけるとありがたい。

### (5) 質問事項とその回答、質疑応答について

大阪府山岳連盟からの質問とその回答について、議長が、配布資料を基に説明した。その後以下の質疑応答があった。

#### 役員選考過程及び、規程について

質問 役員を選考について、どんな議論がされたのか。役員選考過程がオープンになっておらず、今の時代にあっていない。選考方法自体を見直さないと、現在の混沌とした状態は変わらないのではないかと。

回答 役員選考規程は、令和4年に、ガバナンスコードを遵守できるように変更した。ガバナンス委員会として草案を、2回にわたって理事会に提示、審議した。ある

理事から、地方の偏りが無いようにという意見がでて、それも加えた。いろいろな意見をいただき、理事選考過程が不透明等の指摘は理解する。JMSCAの歴史、加盟団体との関係性を踏まえて、規程の改定をすることが必要と感じる。

質問 理事一人が何人でも推薦できるのではないかと、一方、正会員は一人しか推薦できない。推薦された個人情報機密情報だが、選考の過程は機密となっていないならオープンにすべきではないかと。

回答 諮問委員会のようなものを設置し、JMSCAの特性にあいガバナンスコードに則した役員選考規程に改定できればと思う。

回答:以前、ブロック代表理事という文面は入っていたが、途中からこの部分がなくなった。会長を最初に決めるという部分は残り、それに合わせて理事を決めるという部分も残っていた。その後、会長が理事をきめるというはやめて平等になった。役員選考委員は5人~9人とあるが、委員の推薦方法は考える余地があるかもしれない。理事候補は役員選考委員になれないため、偏りが出てしまったかもしれない。これらの反省や意見を諮問委員会で聞き、改定していく必要があると思う。

回答 従前の役員選考規定では、選考委員が会長を決め、その後、役員を決めることになっていたが、まず、理事に推薦された候補者の中から、理事を選び、その後、会長を選ぶということに変更になった。少人数の役員選考委員会で選ぶこと自体が、要検討事項と思う。よく知っている人が入ると良いとのことだが、理事候補者が、選考委員になってしまうと、自分で自分を選ぶようなこともあるので、理事候補者が、役員選考委員会に入るの適切ではないと考えている。

意見 選考の過程がわからないとのことだが、M氏が理事候補者に残った過程は疑問が残る。選考過程を知りたい。

#### 福井県山岳連盟からの質問について

議長が配布資料を基に説明した。

兵庫山岳連盟からの質問に対しての質疑応答(JMSCA赤字問題についての質問) ( )は配布資料の質問番号

質問(1) 丸会長自身が、自分の責任について、考えを示していただきたい。

回答 元旦での挨拶、臨時総会、顧問参与会で申しあげたとおり、会長の任命責任、監督責任を含め、反省し責任があると感じている。JMSCAを改善していく、立て直していきたい。

質問(2) 丸会長に賛同、追従した理事は丸会長と同様に責任を負うべきではないかと。

回答 検証委員会の報告に則り、監事2名と顧問弁護士で、法的責任追及調査をおこなっている。役員損害賠償保険には入っているため、保険会社に請求して、対象となるかどうか調査中。法律と訴訟条件をそろえて、はじめて明確になる。2月から3月には結論を出す予定。具体的な法的責任については、時間をいただきたい。

質問(1) 不適切契約、支出の経緯を明確にしてほしい。たとえば、身内に対して業務委託1,000万円を支出している、見積り

を取らずクライミング競技を執行している、特定業者に偏っていると聞いている、  
**回答** 業者との来期契約の内容は来ているが、一部不適切な部分があり、変更している。

**質問(5)** 丸会長のビジネスクラス使用について経緯をききたい。

**回答** 会長は、八王子WCのマスターアグリーメントについてIFSCとの交渉が必要だった。また、大きな疾病の可能性があった。その後、専務理事は、会長帰国後、ビジネスクラスを使用した、何とかならないかと相談をうけたが、不可と伝えた。ビジネスクラス使用は1-2回あったと記憶している。

**質問(5)** 予算を意識せず執行したのではないか。今年、2月末にIFSCへの出張に行こうとしているが、期末の難しい時期に、行く必要があるのか。

**回答** 2月ではなく、3月を予定している。IFSCで出していただけの分は使うが、それ以外は、自己負担で出張予定。

**意見** 丸会長は、必要と思われる出張について行かれていと認識している。

**質問(6)** 基金、借入金に対する返済計画をお聞かせください。

**回答** 支出を減らして、効果的に事業を行い、収入を増やしながらかつて対応する。抜本的に見直し、再建計画を策定していきたい。厳しい道のりと認識している。

**質問(7)** SC担当理事に聞きたいが、今後余剰金を出し、お金を残す自信はあるか。違約金の取り扱いは、今後どうするのか。

**回答** 7月以降SC部長を引継後、執行何いの手続き通じ、予算支出以下で、事業を遂行している。今後行うBJC、LJC等についても、複数の目を通して、予算内容と、その妥当性の確認をしている。今年、5月にJOC/JSCの助成金が決まる、8月に、オリンピックがある。予算を都度見直し、身の丈に合った事業となるように監視し、黒字につなげていきたい。2025年から博報堂DYとの契約が再スタートする予定なので、既存契約を見直し、スポンサーとの三者契約の方法も考慮する。大会をやめると違約金が発生するというのは、JMSCAと、博報堂DYとの契約ではやむをえない状況である。業者との契約の見直しも行っていきたい。

**質問(8)** 理事会の進行や議決が不透明で、48団体が蚊帳の外となっている。月報で理事会の報告がされているが、会議の内容を直接オブザーバーとして見えるように公開してほしい。

**回答** 事実がゆがめられていると痛感した。役員選考の問題についても、事実が伝わっておらず、だれがどうという経緯で推挙されたというのは、終わった後、結果だけ、後ほど知ったというのが事実。改めて、事実を伝えることが、重要と認識した。月報についても何か方法を考えていきたい。

**和歌山県山岳連盟からの質問について**

議長が、配布済資料を基に説明した。その後、白子理事長が配布資料を基に、組織編成のための、定款変更案審議のための臨時総会を行うことについて補足説明をした。

臨時総会は、1/5(15人)の賛同を得た

ら、30日以内に開く必要があるという権利があることを確認、伝達した。

小野寺専務理事が、配布済資料(回答案)を基に説明した。諮問委員会を作って議論、提案ということになるので、時間がかかる見込み。議長については、理事、正会員になることは可能。組織体制を将来のために整備することには大賛成。

**北海道山岳連盟の質問について**

**質問** 今までの意見交換で状況はわかってきた。基金については、機関決定を経る必要がある。SC事業の見直しをしっかりと行わなければならない。わかりやすく説明してほしい。

**回答** 競技、強化については、過去の延長で進めてしまった部分があり、事業の見直しはここだけではできない部分があるが意見として承っていききたい。

**質問** 自然保護指導員制度改定案について、ハードルが高くなり登録者数減となることを危惧している。

**回答** 情報共有等も進んできて、対象研修等の幅も広げること、指導員の活動の場を広げていきたい。また、研修等の義務付けを行なう改定を検討している。

**意見** 大阪では7名が指導員資格をとった暁には、自然保護指導員になるようにと、指導している。自然保護指導員は増えるのではないかと。

**東京都山岳連盟からの提案について**

配布済資料を基に、廣川正会員が説明、提案した。その後、以下の質疑応答が行われた。

**質問** 再建計画等は、各委員会に任せているとのことだが、JMSCAの今後やビジョンは、会長、副会長、専務理事で協議しないのか。今後の展望について、正会員との活発な議論が必要ではないか。

**回答** 専務理事、事務局、SC部長、登山部長とは、個別協議しているが、全体としての方向性の話はできていない。

**質問** 事務局の業務効率の向上も必要ではないか。

**回答** 経験者、特に会計、財務管理をできる人を雇用予定。

**質問** JOC/JSCの助成金申請の対応は大丈夫か。

**回答** 1月は何とか対応したがこれから半年の間に、事務局内の体制を立て直したい。

**質問** 都岳連のパートタイマー人員を、共有するような方法もあるのではないかと。

**回答** ぜひ検討していきたい。

その後、蛭田副会長が、JMSCAフレンドの促進策について説明した。

登録方法及び、登録促進策として手ぬぐい(8,500本)を利用して登録、デジタル会員証の表示、自然保護指導員資格証の表示等を計画していることを伝えた。

JMSCAフレンドについては、個別に意見交換会等の打ち合わせをさせていただき希望も出された。

**規程変更及びガバナンスについて**

以下の点で、改善が必要ではないかという意見が出た。

- \*役員選考委員会規程
- \*規程類
- \*理事定数
- \*違反者の確定、処分

**質問** ガバナンス委員会として、規模の大きい契約や取引については、審査の上程がなくても、担当委員会に働きかけるなどの積極性が必要ではないか。

**回答** 契約審査会では、500万円を超える契約の場合には、審査対象となっている。こういう事業やものがあるはずだから、提出しなさいというような内部監査が行うようなことまでガバナンス委員会では対応できない。契約審査会でカバーできないならば、執行何いやほかの規程等で補完する仕組は必要である。運用にあわせた規程も必要で、ご意見をいただければ幸いです。

**(6)その他**

廣川正会員が、会長が辞任を考えていないようなので、定時総会前に、臨時総会を開催することを提案できるように進めたいとのべた。

また、亀山前副会長が、以下の意見を述べた。基金は、JMSCAにとって都合がよい方法。こういう基金に資金を提供していただき生き延びるかどうか。加盟団体の意見を聞くと、難しいと感じている。前々期に加盟団体推進プロジェクトチーム(以下PTと呼ぶ)を組織化した。PTとの連携を深め、JMSCAの収益事業として、40数%の収益事業の枠を使い、資金を潤沢に作り出し、将来のための人材の確保や組織基盤の強化をはかっていってはどうか。

その後、各地方岳連・協会から課題及び工夫している点についての報告が、順に行われた。

以上  
令和6年2月10日 記録 赤尾 浩一



かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ



雲取山は東京都の西端に位置し、その山頂は東京都、埼玉県、山梨県の都県境にある。標高は2017m。深田久弥氏による日本百名山の一つに数えられる名峰である。東側に延びる石尾根の先には、遠く東京の街並みを望むことができる。近年は日帰りで訪れる登山者も多いようだが、予定を空けて是非一泊してほしい。雲取山荘から見える夜景、日の出、引き締まった朝の空気。それらは泊まらなければ体験できない。せっかく長い時間を掛けて登るのだ。すぐに帰ってはもったいない。

公益社団法人 東京都山岳連盟 理事 松本圭司

編集後記

群馬県のみなかみ町で、山岳指導員(コーチ)の養成講習会が開催されました。スポーツ競技にはコーチがいる様に、山岳やスポーツクライミングにも日本スポーツ協会(JSPO)と日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)で認定するコーチの資格があります。安全な指導をできるリーダーを育成する事を目的としています。同じ事を学ぶなら、コーチの資格を持つ人から教わる事も一つの選択肢になるのではと思います。余談ですが、JMSCAの遭難対策委員会が主催するレスキュー講習会の講師はコーチの資格保持者です。

(松本光顕)

登山月報 第661号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 令和6年4月15日  
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
 Japan Sport Olympic Square 807  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会  
 電話 03-5843-1631  
 F A X 03-5843-1635

山岳雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

5月号  
発売中

## 【特集】春の立山連峰

★モンベルのウェブサイト  
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



### ▶年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには  
 モンベルポイント **5,000P**プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

### 年間購読特典

岳人コンパクトフォームパッド

手軽に携行できる  
 軽量コンパクトな  
 パッドです。



限定デザイン

岳人カード

全国2,000か所以上で  
 ご優待!

全国の温泉や山小屋など提携施設で  
 ささまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>  
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ  
 モンベルポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul>	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul>	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等)</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul>

立ちどまらない保険。

**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



# 日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、  
山岳保険は義務。**

**ご自身のために、ご家族のために。**

## 日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

## 2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課  
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)  
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)  
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

